

氏名 (フリガナ)	大野 暹(オオノ シン)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2024年8月5日(月)～8月10日(土)
大学名	順天堂大学
学年	5

今回の夏季プログラムには、病歴聴取とケースプレゼンテーションを学ぶことを目的に参加させていただきました。病歴聴取を英語で行う上で、定型的な表現を覚えることが重要であると実感しました。本研修では様々な症例を用いて練習を行いました。痛みを訴える症例、体重減少を訴える症例などそれぞれによって鑑別診断は異なり、それにより聴取すべき事項も異なります。典型的な症例について練習を繰り返し、英語として自然な表現を身に付けることが重要であると実感しました。本研修では、ハワイ大学医学部学生 of 模擬患者に対して病歴聴取を行い、彼らからフィードバックを受けることが出来たことは貴重な経験でした。今後日本においても可能な限りネイティブスピーカーとの練習機会を設け、英語をブラッシュアップしていきたいと思いました。

次にケースプレゼンテーションについて振り返ります。ケースプレゼンテーションでは初めに基本的な型を習いました。その後、与えられた症例についてケースプレゼンテーションを繰り返し練習しました。練習後には指導教員からフィードバックを受けました。自身が受けた指摘事項として、鑑別に関わる重要な情報は現病歴の前半に入れること、プレゼンテーション全体における区切りを意識すること、発表全体でアクセントをつけることを挙げられました。このような具体的なアドバイスは、指導教員に実際にプレゼンをして初めて得られるものであり、改めて本研修の充実した指導体制を実感しました。

また、研修期間中、診療科、国籍を問わず、多くの指導医と関わる機会がありました。様々なバックグラウンドを持つ彼らは、共通してアメリカで臨床を行うことに並々ならぬ熱意を持っておられました。先生方の経験談ではレジデンシーにマッチするまで、レジデントになった後も多くの困難に直面されていましたが、その度に先生方を突き動かしてきたのは、臨床留学に対する熱意に他ならないのではないかと思います。思う念力岩をも徹すという言葉がありますが、臨床留学という困難を乗り越えるには、他でもなく、目標に対する気持ちの強さが重要であると思いました。それだけになぜ自身が臨床留学をしたいのかという動機付けは重要であると思いました。臨床留学には英語の習得、USMLEなどの資格試験、推薦状、履歴書、医師としての人格形成など多くの準備を要し、それぞれが労力を要しますが、正しい動機付けがあれば、高いモチベーションで一つ一つ課題をクリアすることが出来るのではないかと思います。

本研修に参加することで、病歴聴取やケースプレゼンテーションの方法を学ぶだけでなく、臨床留学までのロードマップをイメージするとともに、医師として自身が何をしたいのかということをも改めて見直すきっかけになりました。このような有意義な研修機会を提供して下さった東海大学及びハワイ大学関係者の皆様、日米医学交流財団小玉正智先生にこの場をお借りして感謝いたします。